

## 平成27年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	沿岸南部	学校名	釜石市立平田小学校	TEL	0193-26-5230
------	------	-----	-----------	-----	--------------

### 学校全体で取り組む学力向上

#### 【今年度の目標】

- 1 県学調において、各教科の正答率が県正答率との差で－5ポイント以内に縮める。
- 2 全国学調において、全国との正答率の差を－5ポイントに近づくようにする。
- 3 新5年生のNRTとCRTの正答率を3ポイント上昇させる。
- 4 各学年ともNRTとCRTの正答率が全国比を上回るようにする。
- 5 全国学調・県学調の児童質問紙で、「授業の内容がよく分かる」の割合を上昇させる。

#### 【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 1 全国学調をはじめとする学力調査・学力検査などを担当学年だけのものとせず、内容・結果を全教員で共有して指導にあたった。
- 2 校長、副校長の指導を受けながら、教務部と研究部が連携し、全ての授業において「課題」の提示と「まとめ」「振り返り」の実施を継続して行い、定着度の把握と補充指導を行った。
- 3 担任、サポート教員、担任外との連携を図った少人数指導やTTによるきめ細やかな指導を進めた。
- 4 「一人一授業」を掲げ、担任は研究授業、少人数指導担当と講師も提供授業を行い授業改善に努めた。

#### 【具体的な取組】

昨年度までの自校の課題と今年度の対策についての確認（5月14日 校内研究会）

- ◎ 教務部より「各種調査結果を活用した学力保障の取組先進実践校事業」についての説明を行い、全教員で取り組んでいくことを確認した。
- ◎ 「平成26年度諸調査結果活用レポート」を配付し、昨年度の調査結果の分析結果（課題）と今年度の取り組みについて共通理解を図った。  
〈学校全体として取り組む内容について〉
  - 一単位時間のねらいを明確にし、「わかる授業」の実践に努める。
  - 「がんばりタイム」を実施し、全校体制で補充指導にあたる。
  - 年3回の家庭学習強化週間と「漢字・計算大会」で基礎基本の定着を図る。
  - 少人数指導やTTで個に応じた指導や身に付けたいことを確実に理解させる等の効果的な指導や支援を行う。
  - 各種調査等の結果を分析し、成果と課題を確認する。〈各教科・担任等による取り組む内容について〉
  - 改善点を明確にした授業実践に努める。
    - ・自力解決の時間を保障し、自分の考えをもたせる。
    - ・自分の考えを伝える場（ペア・グループ・一斉）を必ず位置付ける。
    - ・「課題」→「まとめ」→「振り返り」を必ず位置付ける。
  - 家庭学習と家庭読書の習慣化を図る。モデルとなる家庭学習を広める。
  - 学習内容の定着状況のもとに、学習したことを生かした効果的な宿題を出す。

#### 1 「がんばりタイム」・・・算数の基礎基本の定着を図るため、また、低位の児童の底上げを図るための補充指導に取り組んだ。（5月～3月）

- (1) 前年度までは月曜日の放課後学習として行っていたが、祝日・行事等でできない日が多いという反省から、火曜日の昼の時間（13:25～13:40 掃除なし）に変更して時間を確実に確保し、計画的に指導を行った。
- (2) 担任外の協力も得て、どの学年も2人～3人体制で指導にあたった。
- (3) 15分という短い時間なので、プリント1～2枚程度とし、基礎基本の定着の徹底を図った。

#### 2 前年度のCRT、4月に行ったNRTの結果分析と弱点付箋貼り（5月・夏休み 校内研究会）

- (1) 新担任は、学級経営案に綴ってある今までの分析結果を参考にして指導指導にあたる。
- (2) 前年度のCRTについては、その結果から全国通過率と学年の通過率の差が15%以上の項目をピックアップし、教科書に付箋を貼り指導の強化を図っている。
- (3) 4月に行ったNRTについては、結果が届き次第CRT同様の分析を行い、付箋貼りを行った。

### 3 全国学調の分析作業 (7月20日 校内研究会)

- (1) 全国学調終了後、教務主任と加配教員が正答・誤答・無答をチェックし表にまとめた。
- (2) 一人ひとり「国語A」「国語B」「算数A」「算数B」の問題を解き、問題の傾向を捉えた。
- (3) 「国・算・理」の3つのグループに分かれ、問題の概要からどの学年で学習する内容なのかを確認した。
- (4) あらかじめまとめておいたチェック表から、誤答10名以上、無答3名以上の問題に印をつけていった。文章で書き表す問題に誤答・無答が多かった。
- (5) グループごとに分析結果を話し合った後、落ち込んでいる項目が何年生で指導するものなのかを全体で確認して共通理解を図った。

### 4 全国学調の補充指導 (8月～)

- (1) 全国学調の問題を1題ずつ印刷し、朝学習の時間を使って児童に取り組みさせた。その場ですぐに答え合わせを行い、補充指導を行った。
- (2) 補充指導後、教務主任がチェック表に正答・誤答・無答を記入し、4月に行ったものと比較してみた。1題ずつ取り組めば解ける問題が増えることがわかったが、今後、中学校、高校でも問題数の多いテストに取り組んでいくことになるので、テストへの取り組み方にも慣れさせいくことを確認した。

### 5 県学調に向けた事前指導と事後指導 (9月～10月)

- (1) 昨年度の問題をプリントし、一通り問題に取り組みさせた。
- (2) 解けなかった問題や落ち込んでいた問題の類似問題に取り組みさせ、学習内容の定着を図った。
- (3) テスト終了後、すぐに落ち込んでいる問題の補充指導を行った。(一斉指導)
- (4) 県の結果と比較した結果を冊子にまとめ、全教員に配付して指導の参考にできるようにした。

### 6 保護者向けの学校便りと一緒に「全国学調」「県学調」の個人票を配付 (10月, 11月)

- (1) 児童全体の様子を知らせるために、「正答率が低かった問題」「児童質問紙調査の主な結果」「今後の取り組み」を載せて配付した。
- (2) 全教員にも配付し、「今後の取り組み」の共通理解を図り、指導に生かすようにした。

平成27年11月10日

5年生保護者 各位

釜石市立平田小学校  
校長 柳田 秀雄

岩手県学習定着度状況調査の結果と今後の取り組みについて  
秋の候、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。  
さて、10月7日に実施した岩手県学習定着度状況調査の結果ができましたのでお知らせします。この結果を分析し、今後の学習に生かしていきます。

1 個別返却シートの見方

- …正答 ×…誤答または無答
- グラフの数値は、県の正答率です。
- お子さんの正答率は、○(正答)の数を問題数(30)でわれば出ます。

2 学年で正答率が低かった問題(%)

【国語】

No	調査問題のねらい等	県	本校
6	収集した情報を取り入れて明確に説明することができる。	45.5	17.9
21	登場人物の言葉から、登場人物の言おうとしている意味をとらえることができる。	44.5	25.0
24	文と文のつながりをとらえて読むことができる。	70.4	50.0
27	関係相互の関係をとらえ、説明されている視座をとらえることができる。	55.9	32.1

【算数】

No	調査問題のねらい等	県	本校
16	違いを見つけ、問題を解く方法を考えることができる。	53.1	35.7

【社会】

No	調査問題のねらい等	県	本校
5	販売の仕事の工夫と消費者の権利との関係について考えることができる。	64.0	42.9
20	伝統的な工業などの地域産業のさかんな地域の特色がわかる。	61.2	39.3
24	国土の地形の特色がわかる。	62.4	46.4
27	未作り農家の人々の家の生活の費用を減らすための工夫について、資料を読み取って考えることができる。	66.4	50.0
29	未作り農家の人々の、米の味や生産を高めるための工夫がわかる。	44.0	21.4

【理科】

No	調査問題のねらい等	県	本校
17	水が凍る温度や融解する温度を理解している。	81.4	57.1
22	肥料をおたえた植物がよく成長することを理解している。	52.7	17.9
26	メダカのおすめとめすの見分け方を理解している。	84.6	60.7
30	実験結果から、結果には変動が必要であることを説明できる。	55.0	32.1

【裏面もお読みください。】

3 児童質問紙調査の主な結果(28人中)

4	自分にはよいところがあると思いますか。	8	25.0% <input type="checkbox"/>	11	31.3% <input type="checkbox"/>	7	20.0% <input type="checkbox"/>	2	5.7% <input type="checkbox"/>							
10	学校の授業以外で、1日にどのくらい勉強しますか。(土日を除く)	3時間以上	6	17.1% <input type="checkbox"/>	2時間以上3時間未満	0	0.0% <input type="checkbox"/>	1時間以上2時間未満	9	25.7% <input type="checkbox"/>	30分未満	10	28.6% <input type="checkbox"/>	まったくしない	2	5.7% <input type="checkbox"/>
15	学校の授業以外で1日にどのくらい読書しますか。(土日、漫画を除く)	2時間以上	1	2.9% <input type="checkbox"/>	1時間以上2時間未満	2	5.7% <input type="checkbox"/>	30分未満	20	57.1% <input type="checkbox"/>	まったくしない	3	8.6% <input type="checkbox"/>			
17	新聞を読んでいますか。	毎日読む	3	8.6% <input type="checkbox"/>	週に1-3回読む	2	5.7% <input type="checkbox"/>	月に1-3回読む	8	22.9% <input type="checkbox"/>	ほとんど読まない	15	42.9% <input type="checkbox"/>			
20	人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。	必ず	18	51.4% <input type="checkbox"/>	できるだけ	7	20.0% <input type="checkbox"/>	さっぱりしない	0	0.0% <input type="checkbox"/>						
31	国語の授業の内容がよく分かりますか。	よく分る	10	28.6% <input type="checkbox"/>	よく分らない	8	22.9% <input type="checkbox"/>	よく分らない	2	5.7% <input type="checkbox"/>						
35	算数の授業の内容がよく分かりますか。	よく分る	16	45.7% <input type="checkbox"/>	よく分らない	8	22.9% <input type="checkbox"/>	よく分らない	3	8.6% <input type="checkbox"/>						
39	社会の授業の内容がよく分かりますか。	よく分る	8	22.9% <input type="checkbox"/>	よく分らない	15	42.9% <input type="checkbox"/>	よく分らない	2	5.7% <input type="checkbox"/>						
43	理科の授業の内容がよく分かりますか。	よく分る	18	51.4% <input type="checkbox"/>	よく分らない	7	20.0% <input type="checkbox"/>	よく分らない	0	0.0% <input type="checkbox"/>						

4 今後の取り組み

- (1) 国語は言語活動を充実させることに努めながら、文章に書かれていることをしっかりとらえて読み取り、自分の思いを発表したり、文章で表現したりする力をつけていきます。
- (2) 算数は既習事項との関連を図りながら、更に力をつけていくよう繰り返し学習させていきます。
- (3) 社会は複数の資料から、特色・工夫等を正確に読み取る力を高め、調べたことや考えたことを表現する力を育てます。
- (4) 理科は用語を大事に扱いながら、理由や結果まで説明できる力を育てます。
- (5) 授業では次のことを継続していきます。  
ア 何をこの授業で身に付けさせるのかを明確にします。(明確な学習課題の設定)  
イ 学習事項を確実に身に付けさせることができたか確認します。(定着の把握)  
ウ わかりやすい授業の工夫・改善に努めます。  
エ 発表や説明する言語活動を多く設定し、国語以外でも言語能力を高めていきます。
- (6) 基礎的な内容や問題に年間を通して継続的に取り組んでいきます。
- (7) 授業内容の理解を促進する家庭学習に計画的に取り組ませます。
- (8) 文章読解力向上に向けて、新聞のよさを知らせ読むことを働きかけていきます。

5 その他

- 事後指導をした後、問題用紙と解答用紙、児童質問紙を持ち帰ります。どのような問題が出たのか、ご家庭でもご覧になり、参考になさってください。

### 7 改善点を明確にした授業実践・・・「考えをまとめて表現すること」が落ち込んでいるので、まず自分の

- 考えをもち、自信をもって発表できるようにさせるために・・・
- (1) 学び合いの充実を図る手立ての工夫
    - ア 書く活動を取り入れ、自分の考えをもつための時間を確保した。
    - イ 児童の実態や学習内容に合わせて、学習形態(ペア・グループ・全体)を工夫して、話し合いを充実させた。


(2) 付けたい力を明確にした授業づくり

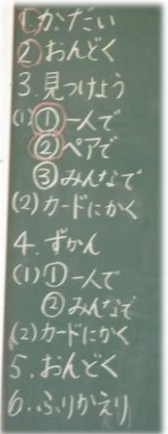
ア どの教科でも「課題」を明確にして学習の見通しをもたせた。

イ 授業の終わりに学習を振り返る時間を設定し、自分の変容や高まりに気付かせたり、次の学習への意欲付けを図ったりした。

ウ 国語においては、単元名を工夫し、その単元で身に付けたい力と言語活動が分かるようなものにした。  
【1年「いろいろなふね」】

～のりものの「やく目」「つくり」「できること」をしらべて、のりものカードをつくろう～

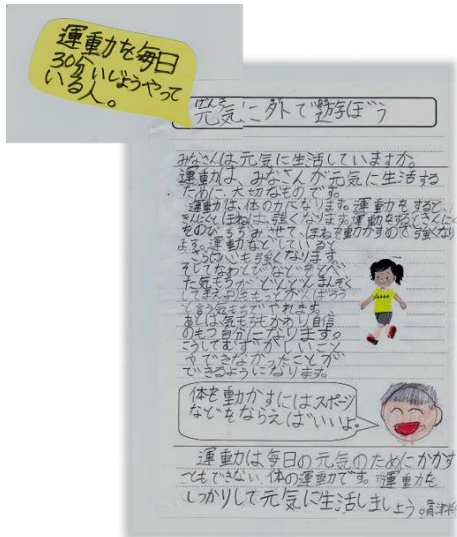
段階	学習活動	予想される児童の考え	指導上の留意点(・) 評価(□)
課題	1 前時までの学習の想起をする。 2 <b>学習課題をつかむ。</b> ぎよせん「やく目」と「つくり」「できること」を見つけよう。		・学習の流れ、前時の学習内容がわかるように掲示しておく。
	3 学習場面の音読をする。 ・一斉読み 4 「ぎよせん」の内容を読み取る。 (1)教材文や写真から「やく目」と「つくり」「できること」を見つける。 ○「ぎよせん」の「やく目」「つくり」「できること」は何ですか。 ①一人で考える。 ②ペアで交流を図る。 ③全体で交流を図る。 (2) <b>「ぎよせん」について、カードにまとめる。</b> (3)図鑑からいか釣り漁船の「やく目」「つくり」「できること」を見つけ、話し合う。 ○図鑑から見つけたことは何ですか。 ①一人で考える。 ②全体で交流を図る。 (4) カードにまとめる。	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・やく目は、魚をとる。</li> <li>・つくりは、魚の群れを見つける機械や網を積んでいる。</li> <li>・できることは、見つけた魚を網で獲る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やく目」や「つくり」「できること」に着目させる。</li> <li>・「やく目」「つくり」「できること」にサイドラインを引かせる。</li> <li>・「やく目」は⊙、「つくり」は⊙「できること」は⊙と書かせる。</li> <li>・なぜ機械が積んであるのかについても補足説明をし、漁船のイメージを膨らませる。</li> </ul>
まとめ	5 まとめの音読をする。 ・指名読み 6 <b>本時の振り返り</b> をし、次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電球がたくさんついている。</li> <li>・網を巻き取る機会がある。</li> <li>・自動イカ釣り機がついている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図鑑はコピーしたものを使用する。</li> <li>・電球や自動イカ釣り機についての補足説明をする。</li> </ul>
振り返り			<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードに記入させる。</li> <li>・次時は、消防艇について学習することを伝える。</li> </ul>



児童の振り返りカードから

- ・「やく目」「つくり」「できること」がわかってよかったです。
- ・「しゃしんにはこんなにヒントがのっているんだな。」って、びっくりしました。
- ・ずかんで見つけることがむずかしくてわからなけれど、〇〇さんのはっぴょうをきいて、わかってよかったです。

エ 学習のまとめとしてできあがったカード等は、学年の掲示コーナーで紹介し、意欲付けを図っている。自分の作品が掲示されることにより、相手を意識しながら作品を仕上げる姿が見られた。また、掲示コーナーの作品に関心をもち、カード等を読み合う他学年の児童の姿も見られた。

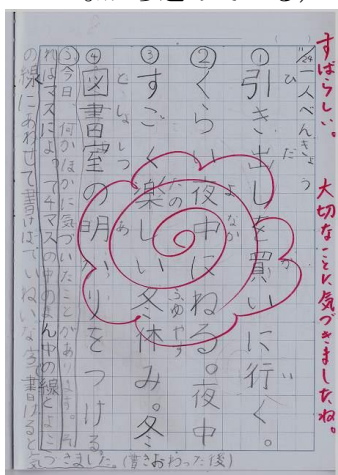


※3年生『ほけんだより』をよみくらべよう



オ モデルとなる家庭学習を広める

- ① 児童昇降口に掲示コーナーを設け、各学年の手本となるノートをコピーし掲示した。
- ② 2学期からは、家庭学習ノートにも「振り返り」を書かせ、その日の学習内容や取り組み方について振り返らせるようにしている。（「家庭学習強化週間中」は、チェックカードを使って、家庭の協力を得ながら進めている）



2年生の一人べんきょうノート



通分や約分はできるようになったが、約分の書き忘れがあるので直したい。(5年生)

かんじのれんしゅうをしたので、そのままかんじ大かいに生かしたいです。(1年生)

漢字はとめ・はね・はらいに気をつけて書きました。社会・理科は重要なところを色分けなどをして、繰り返し復習しました。(6年生)

いつもよりきれいに書いてよかったです。(3年生)

今やってもわからないことがあったりするので、またノートに書くようにしたいです。(4年生)

**【成果】**

目標に対する結果

- ・県学調において、算数においては〈+3.4ポイント〉と上回り、理科においては〈-4ポイント〉と、県との差を-5ポイント以内に縮めることができた。
- ・県学調の児童質問紙で、「授業の内容がよく分かる」の割合が、国語で36%（前年度15.1%）、算数で57%（前年度42.4%）と、上昇が見られた。

- 学校全体で「各種調査結果を活用した学力保障」について確認し取り組んだことで、全教員が自校の課題をしっかりと捉え、継続的な検証改善サイクルを確立し、指導の充実や改善に役立てることができた。
- 各種学力調査・学力検査の結果の分析を教務部と研究部が連携を図りながら行ったことで、学年の系統性や小中連携の必要性を感じる事ができた。
- 学力テストの分析を平均だけでなく、誤答や無答の分析など多面的に行うことができた。
- 分析した結果から、授業力の向上が児童の学力向上につながることを念頭におき、より分かりやすい授業を行うように努めることができた。
- 教師自身がねらいを明確にもって授業に臨むことで、1時間1時間の授業の積み重ねが学力向上の中心であることを自覚し指導にあたる事ができた。
- 振り返りを通して、児童が「わかった。」「楽しかった。」と感じられる授業が増えてきた。